

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

平成30年度 第2回 地域協議会 議事録

- 日 時：平成31年3月8日（金） 20:00～21:00
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 新病院について
2. 収支状況の説明について
3. 当院への要望等について
- 出席者：松本雅彦（大宮医師会会長）、百村伸一（自治医科大学附属さいたま医療センター長）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、菅原養厚（副院長）、中條洋（院長補佐）、安藤さとみ（総看護師長）、五井周一（事務長）、百本輝茂（事務長補佐）、工藤夕貴（地域連携室係長）、佐藤弘明（総務係 書記）
- 欠席者：青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事）業務多忙のため
天辰優太（さいたま市保健福祉局地域医療課長）業務多忙のため
- 院長挨拶：
新病院開院したが、電子カルテの導入が見送られたため、引き続き本部と交渉し、早期導入を目指したい。
自治医大さいたま医療センターのご協力の元、4月より循環器内科の常勤医師を派遣いただけるとなり、心カテの設備も整ったので少しずつ、検査件数を増やしていきたい。
現在、2病棟での運用だが、3か月の実績を元に5階を地域包括ケア病棟で申請していく予定。その後、医師会の先生方のご協力をいただき、開放病床を設けたいと考えているので、引き続きご指導よろしくお願いたします。
- 委員紹介
- 議長の選出：百村委員
- 議題
1. 新病院について

- ・ 新病院の概況について（五井事務長）
別紙のとおり

質問等

—松本会長：在宅医療を担当している先生は？

—院長：黒田、松本、菅原、非常勤医師で往診している。訪問診療患者は10数名おり、当院で入院し、退院後に自宅で過ごしたい近隣居住の患者を対象としている。在宅療養支援病院の届け出をしているので、3クリニックと毎月カンファレンスを行っているが、当院は看取り件数が少ないため、協力しながら強化型を継続していきたい。

—田中会長：医療体制が不便だったため、病院の開院は地域住民として大変ありがたい。公開講座や健康診断にて、患者が安心して受診できるよう地域の健康管理を継続してほしい。

—院長：当院は、エレベーターもあるため、大会議室を中心に公開講座を継続し公民館や社会福祉協議会から要望があれば、出向いて講演していく予定。

—百村センター長：6階病棟がオープンできない理由は、医師や看護師の不足か？

—院長：163床に対して看護師も足りていないが、一番の理由は計画していた整形外科の常勤医師が確保できなかったこと。百村センター長からご紹介いただいた大学病院へ早速アポイントを取って引き続き派遣いただけるよう努めていく。

—松本会長：さいたま市大宮休日夜間急患センターは問題なく運用できているか？

—院長：問題なく運用できている。

—安藤総看護師長：患者が迷わないよう導線をしっかり構築していきたい。

—百村センター長：電子カルテ導入の可能性はいかがか？

—事務長：地域からの要望もあるということで、引き続き本部へ交渉していく。

—田中会長：3/4 外来オープン時から患者の状況はいかがか？

—院長：内科が特に多く、初診患者の受付は11時終了だが、診察終了が15時過ぎとなっている。旧病院の1.5倍は患者が増えている。

—松本会長：新しい病院で紹介状なくても診てもらえることが大きいだろう。

―百村センター長：紹介状持参患者の待ち時間軽減対策は？

―院長：以前より課題となっており、優先的に診察ができる運用にしたいが、患者トラブル等も考慮し、今後検討していく。

―百村センター長：当センターとの病病連携の具体的な運用状況は？

―工藤係長：地域包括ケア病棟の見なしのベッドも空床状況として分かりやすく共有しており、MSW 等にアポイントを取り、退院支援にも積極的に取り組んでいる。また、さいたま赤十字病院とも協定締結の日程調整の段階まで進んでいる。

―田中会長：個室が多いように感じたが理由は？また、金額は？

―院長：理由はないが、旧病院で個室を希望したが、満床のため大部屋に入らざるを得ない状況があった。

―安藤総看護師長：大部屋は差額なし。3000円・9000円・12,000円の設定だが、現在利用している患者も多い状況。個室は各階、10床ほどである。

―百村センター長：連休の勤務体制は？

―院長：4月30日と5月2日通常診療を行い、職員には振替で休みを取ってもらう。

―田中会長：駐車場とブリッジの状況は？

―院長：旧病院の約2倍のスペースなため、駐車場が満車になり並ぶようなことはない。

―五井事務長：管理上の問題で、本部とさいたま市にて協議中のため、ブリッジの工事は中断している。

―百村センター長：救急車の導線は？

―院長：当院と救急隊でルートを確立し、住民説明会も行ったので、近隣住民からの苦情等はない。

2. 収支状況の説明について（百本事務長補佐）

平成30年度の収支は、約マイナス2億円を見込んでいるが、1月現在1億5千万円の黒字である。2月は引越に係る入院患者の抑制にて収益が下がり、3月よ

り減価償却費がかかるので、結果的に年度末には計画通りとなる見込み。患者数は、概ね計画通りである。

—院長：今後、外来患者を減らし入院患者を増やしていく方針。病床利用率 95%、平均入院患者数 106 名が目標。

3. 当院への要望について

—松本会長：外来患者は駐車場最大 2 時間まで無料だが、待ち時間が長いので、クレーム等ないか？

—百本事務長補佐：ご意見をいただいているので、今後の検討課題とする。

—中條院長補佐：診療科と担当医によって待ち時間にばらつきがあり、一番待ち時間が長いのは、予約がない新患患者で内科が最大で 2 時間程度。予約のある患者でも最大 1 時間程度はお待ちいただいている。新病院となり、予約を取っていなかった診療科も予約制に切り替えている。

—百村センター長：患者満足度調査の実施は？

—中條院長補佐：旧病院にて 2 か月前に行ったばかりで、年 1 回本部主導により全国一斉に行くため、次回はおおよそ 1 年後となる。

—松本会長：医院からの紹介は、FAX でなく電話にて受けてもらいたい。

—院長：電話を増設、人員配置等運用を検討させていただく。

次回開催について

—百本事務長補佐：10 月頃開催予定のため、日程調整後、お知らせいたします。

以上